

「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック」を実施

～家族防災力を高め、南海トラフ巨大地震などの自然災害に備える～

日本損害保険協会中部支部(委員長:松田 謙二郎・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社執行役員)では、名古屋大学の 福和 伸夫 名誉教授をナビゲーターに迎え、「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック」を6月1日(土)に実施しました。当日は、応募者172名から抽選で選ばれた18組37名の親子に参加いただき、防災・減災を楽しく学びました。

当日は4つのプログラムを実施し、地球科学と災害の関係を知る「名古屋大学博物館ツアー」の後、地層や建物などを探検する「東山キャンパスツアー」、減災館の学習装置を用いて災害の危険性を学ぶ「減災館見学ミニツアー」を、最後に減災館で「福和教授による揺れ方の実験」を実施しました。

「名古屋大学博物館ツアー」では大学生や学芸員が博物館の展示物について解説し、参加者は展示物を見たり触れたり質問をしたりして、地球科学や地域の成り立ちへの理解を深めました。

「東山キャンパスツアー」では、高低差約40mの東山キャンパスの地形を感じながら歩き、地層がむき出しになっている八事層を見て触ってチャートを発見したり、福和教授と大学生が建物や遺跡を解説しました。

「減災館見学ミニツアー」では、福和教授のナビゲートに基づき、減災館の免震装置を見学したり、プロジェクションマッピングで地域の浸水の状況を地図に投影したのを見たりするなど、珍しい設備や学習装置を見学・体験しました。

「福和教授による揺れ方の実験」では、プリンを使って地盤や地形による揺れの違いを見たり、ココアと小麦粉を使って断層のでき方を学んだり、実験キットを使って建物の構造による揺れの違いを学びました。

地震発生時の建物の揺れを実感した参加者からは、「足を踏ん張るだけで揺れ方が全然違う!」といった驚きの声も上がりました。

実施後の参加者アンケートでは、「イベントの様子を学校でも紹介し、クラスで減災について話し合うきっかけになった。」「初めて地震保険の重要性が理解できた。早急に検討しようと思った。」「イベントの数日後に発生した地震の際、いつもは被らないヘルメットを子ども自ら被り、身を守る行動ができていた。」といった感想が寄せられました。

当支部では、南海トラフ巨大地震に備えて、家族や地域の防災力を高めるため、今後もこうした取り組みを進めます。



名古屋大学博物館ツアー



東山キャンパスツアー (八事層の解説)



東山キャンパスツアー（建物の解説）



減災館見学ミニツアー（構造の違いによる建物の壊れ方）



減災館見学ミニツアー
（プロジェクションマッピング）



減災館見学ミニツアー
（建物の高さによる揺れ方の違い）



福和教授による実験
（姿勢や立ち方の違いによる揺れ方の違い）



福和教授による実験
（断層のでき方）